地域における医師不足と臨床研修制度

平成16年度より新医師臨床研修制度が開始され、地域における医師不足が一挙に顕在化した。原因として、臨床研修病院希望者の増加に伴う、大学の派遣力低下が挙げられている。ちなみに平成23年度の全国マッチ者数は、大学病院47.1％に対し、臨床研修病院52.9％である。指導体制もさることながら、給与や待遇面からみても、この比率が今後大きく変わるとは思えない。

もう一つ重要な問題は、研修医の大都市圏への集中である。平成23年度のマッチ者7,951名中、東京、神奈川、愛知、大阪と福岡の５都府県が3,457名（43.5％）を占めており、関東、東海や関西など圏域でみればその割合はさらに高まる。本道における研修医数は、平成17年度の325名をピークとし、平成23年度には258名まで減少している。すなわち、大都市圏以外では、当該地域の医育機関卒業者数を大きく下回っているのが現状である。平成21年度の見直しに際し、国は「募集定員の総数が研修希望者の1.3倍を超える規模まで拡大し、研修医が都市部に集中している」ことを問題視し、都道府県の上限を設定することとした。

しかし、その後、激変緩和措置などの名目のもとに骨抜きとされ、平成23年度の募集定員も、登録者数8,225名に対し10,550名といまだ1.28倍多い状態が続いている。卒業した地域に拘束する必要はないが、少なくとも各都道府県の募集定員数は、卒業者数とおおむね一致させる必要がある。「募集定員の上限設定」は、前回の見直しにおいて「研修プログラムの弾力化」や「研修の質の向上」とともに３つの基本的考え方の１つと位置付けられており、新たな提案ではない。

この遵守に焦点を絞り、国と折衝して行くことが現実的かつ急務であろう。　（北海の熊）

世界人口の爆発

地球が誕生して40億年。単細胞生物から進化して、人類をはじめ多種多様な生物が地球上には3,000万種以上存在している。

人類が類人猿から分かれたのが新生代第三紀の300万年以上前であるが、第四紀になっての約160万年前にホモ・エレクトスが出現。約20万年前に現代人が登場している。

現在、世界人口の爆発的増加が問題になりはじめているが、人類の歴史から言えばごく最近までは実にゆっくりとした増加でしかなかった。それが、産業革命以降は信じられない勢いで人口が増えている。ちなみに世界人口は歴史的に認識されている紀元前7000年から600年頃までは500万人から1,000万人、西暦元年頃には２億人から４億人。産業革命の起きた1800年頃には10億人前後と推計されている。

中学生の頃にマルサスの人口論を読んで、地球上には60億人以上住めないという文章が私の頭に強烈に残っていたが、すでに2011年には約70億人、2050年には93億人になると推計されている。人口が増えてきた要因は伝染病や疾病に対する医学の進歩、飢餓、食糧難に対する食糧生産能力の向上、住環境の整備、大量殺戮兵器を使用しての戦争の回避などが考えられる。今後の世界では人口が減少する要因があまり考えられない。特にアジア・アフリカの経済発展により世界人口の増加はさらに一層加速することが予想される。

しかし、地球上に住める人口には必ず限界がやってくるはずである。今後、地球温暖化も含めた自然環境破壊により食糧危機など人類が生存する上で壊滅的な打撃を被ることが考えられる。狂気の戦争も然りである。ＳＦの世界では他の惑星への移住も考えられるが、まだまだ数百年、数千年先のことである。科学の進歩よりも人口の増加がすさまじい。　（五円玉）